

## 南極委員会が行った「テーマ別セッション」 について

丸山 健人\*

増田耕一氏(1988)の「スペシャル(テーマ別)セッション」提案者の弁(7月号)を読み、私は1973年秋季大会(仙台)に「南極の気象」、1974年秋季大会(福岡)に「極気象・寒冷地気象」のセッションを設けたことを思いました。当時私は南極委員会の担当理事であった。15次(1974)、16次(1975)と中断していた気象部門の南極研究観測の再開をめざし、1973年4月、学会は南極委員会を発足させた。さらに、1975年1月、POLEX-SOUTHがGARPのサブプログラムとして採択され、わが国がこれにどの程度参加できるかも日程にのぼっていた。上記セッションも、南極の気象について一般会員に関心をよせていただくための同委員会の活動の一つとして、関係者を通じ研究発表の申し込みをよびかけて行なったものである。南極関係の発表を一つのセッションにまとめるということが目的なので、講演企画委員会を通じての発表の公募はせず、申込書を取りまとめ、座長候補者を内定して、講演企画委員会の方に届けた。発表者には、申込書とともに講演要旨を提出してもらい、「天気」誌上に掲載した(南極委員会、1973、1974)。これには特別の意味があった。前年の1972年まではすべての研究発表について講演要旨が「天気」誌上に掲載され

ていた。これが1973年から標題のみになり、講演要旨が掲載されているのはこのセッションだけになったからであった。

当日は、一般のセッションと全く同様に進行された。発表時間の制約もあり、討論が特にもりあがったわけではなかったが、普通ならいくつかのセッションに分散したかもしれない発表をとりまとめることができた。私はその頃この経験から、「適当なセッションがなくて」という人には、何人か発表者仲間を募って、適当な座長さんをお願いしてまとめて申し込むように、と話したものである。実行した人はいなかったようだが、増田氏の提案は、忘れかけていたこの経験を思いださせてくれた。もちろん私は趣旨に賛成である。

なお南極委員会は、第17次南極研究観測計画の一つとして「南極におけるユーロゾル及び微量気体成分の研究観測」という研究計画を推薦し所期の目的を果たした。

### 文 献

- 南極委員会、1973:「南極の気象」のセッションについて。天気、20、445-446。  
 ———、1974:“極気象・寒冷地気象”のセッションについて。天気、21、478-479。  
 増田耕一、1988:「スペシャル(テーマ別)セッション」提案者の弁。天気、35、455-456。

\*Taketo Maruyama, 気象研究所。

## 第3回「大学と科学」公開シンポジウムのお知らせ

地球—ダイナミックな躍動—

主 催: 第3回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会

後 援: 文部省、学術情報センター、日本学術振興会、  
経済団体連合会、社団法人日本気象学会 他

日 時: 昭和64年1月30日(月)~2月1日(水)

会 場: 経団連ホール

東京都千代田区大手町 1-9-4